

令和4年度 全国吟詠コンクール指定吟題
(岳精流)

① 生田に宿す

菅茶山

千歳恩讐雨霧ら存す

風雲長為忠魂を弔う

客窓一夜松籟を聴く

月暗楠公墓畔の村

⑥ 望湖楼醉書

蘇軾

黒雲墨を翻て未山遮す

白雨珠を跳して乱船入る

地巻風来て忽ち吹散す

望湖楼下水天の如し

② 春曉

日柳燕石

花気満濃霧似嬌鶯幾囀知を知らず

嬌鶯幾囀知を知らず

吾が楼一刻価千金

春宵在らず春曙に在り

⑦ 応制天の橋立

叙希世

碧海の中央六里の松

天橋の絶景是れ仙蹤

夜深人龍燈の出を待

月落文殊堂裏の鐘

③ 出郷の作

佐野竹之助

決然国を去て天涯に向

生別又兼ね死別の時

弟妹は知らず阿兄の志

慇懃神牽いて帰期を問う

⑧ 書懷

篠原国幹

雨有り烟有り又雲有り

四百余州乱れて紛紛

腰間の秋水今方に試みん

妖邪を掃了して国君謁え

④ 蘇台覽古

李白

旧苑荒台楊柳新

菱歌清唱春勝えす

只今惟西江の月有り

曾思吳王宮裏の人

⑨ 八陣の図

杜甫

功は蓋う三分の国

名は成る八陣の図

江流るも石転ぜず

遺恨なり呉を吞むを失す

⑤ 秋思

劉禹錫

古より秋逢う寂寥を悲む

我言秋日春朝に勝ると

晴空一鶴雲を排して上る

便詩情を引ぞ碧霄到る

⑩ 漢江

杜牧

溶溶漾漾として白鷗飛ぶ

緑浄春深うして好衣を染

南去北来人自ら老ゆ

夕陽長えに送る釣船の帰るを